

スポーツ

川越

発行 川越市体育協会



総合体育大会オープンイベント

総合体育館竣工にあたり



川越市長 舟橋 功一

スポーツ・レクリエーション活動の拠点となるべく川越運動公園総合体育館が完成いたしました。この総合体育館建設の背景には、昭和50年代にスポーツの種目の多様化・大衆化が進み、さらに観るスポーツから参加するスポーツへの意識変化、スポーツ人口の増加等にもともなう施設の建設要望が高まり、昭和57年に市制60周年記念事業として「総合運動公園基本構想」が策定され、この構想に基づき建設したものであります。さらに平成七年度より隣接地にテニスコート、自由広場の建設に着手いたす予定です。さて、近年の急激な社会環境の変化や価値観の変化にともない、身体的・精神的ストレスの増大の傾向にあるなか、改めて心身の豊かさ、健やかさが問われております。このような現代に生きる私たちにとって、生涯にわたりそれぞれのライフステージに応じてスポーツ・レクリエーション活動に親しむための「生涯スポーツ」の啓発普及の必要があります。さらに都市化、情報化、高齢化などの一層の進行が予想される21世紀社会においては、その重要性がますます高まるものと思われまます。

そのためにも、推進の方向性を明確化し、市民の皆様の要望に応える体育施設の整備、各種大会の開催、指導者の養成、さらに学校体育施設の開放を含めた施設の整備・充実を積極的に行なうことが必要だと考えられます。

また、競技スポーツの祭典であります第59回国民体育大会（埼玉国体）を迎えるにあたり、本市のスポーツ振興の柱となる、体育団体の組織の充実・強化をはじめ、各スポーツ・レクリエーション団体及びグループの育成に努め、生涯スポーツ、競技スポーツの両立を図ることを中核に据え、推進してまいりたい所存であります。

おわりに、このような現状のなかで、その一翼を担う施設としてオープンしました総合体育館は、幅広い層の市民に親しまれ、コミュニケーションの場としても大いに活用されることを願うものであります。

川越市体育協会の歩みと

21世紀への展望



川越市体育協会会長

関口 正 鏖

一九九五年、今年は戦後五〇年、冷戦という緊張感が緩和されることによって世界史の流れが急速に変わりつつあります。日本の国際的役割がこれまで以上に問われ、政治、経済、社会も根底から改革を迫られることは必定といわれております。

スポーツ界においてもこうした時代認識の上になつて進路を選択しなければならぬ時にあると思います。

川越市体育協会もあと二年たつと五〇周年になります。一つの節目の年に向つてただ単に時の流れを振り返るだけでなく、五〇年のもつ意味をきちんと見つめ直す必要があるのではないのでしょうか。

かえりみますと、川越市体育協会は昭和二十一年敗戦後の廃墟と混乱のなかから「祖国の再建はスポーツの復興にあり」と再スタート

んだ五〇年代。こうして六〇年代が過ぎ平成の時代を迎える。

大きく変動していく時代の流れ

それにもなう価値観の多様化、

こうした環境のなかで、地域の体

協が現在の体制・体質で柔軟に対

応し、どう役割を果たしていくのか、

又どう変革していくことができる

のか。記録を競う「競技スポーツ」

と一般の人々が幅広く楽しみなが

ら参加する「生涯スポーツ」とい

う二つを両立する新たな進展の担

い手たんとするためにはいくつ

かの課題を考え直して見なければ

ならないかと考えます。

(一) 体育・スポーツの意義について

体育といえはスポーツと思つた

りする体育とスポーツとの区別の

あいまいさ、スポーツ即競技とい

うような考え方、体育とスポーツ

はもともと意味が異なるというこ

とについても意志統一し広い視野

になつてスポーツは文化であると

いえるように意識の転換をはかる

必要があるのではないのでしょうか。

(二) 競技スポーツについて

競技の頂点にあり「アマスポー

ツの祭典」といわれたオリンピック

クもスポーツ技術の水準の世界的

高まりは「各国のスポーツ技術の

競演」に変わり、プロ化の方向に進

んでいるといえる背景のなかで、

地域が協が選手育成のために

「競技力の向上」と取り組もうとし

た場合、指導者・資金・設備など

態勢が整えられるのでしょうか。

こうしたことを考えると「スポー

ツの普及」と「底辺の拡大」とい

う課題を積極的に取りあげて地域

住民のスポーツ活動の場としての

スポーツクラブの設置・育成に全

力をあげ、やがて競技選手につな

げる方向を選んでいくべきと考え

ます。

(三) 「生涯スポーツ」について

時代の特徴として高齢化社会の

急速な進行、子供達の体力の減退

がさががれ、体力・健康づくり志

向のスポーツ要求が増大し「生涯

スポーツ」が取り上げられたもの

と思ひますが、若い人から高齢に

なつても楽しめる「市民スポーツ

の振興」こそ時代のニーズであり、

これに積極的に対応していくこと

こそ体協の本来の姿勢と捉え認識

を新たにしていける直し取り組みの

強化をしていくべき課題と考えま

す。

(四) 体協の組織・機構について

現在の組織・機構は種目別競技

連盟の加入という団体の集合体で

あり、運営にあたつても各団の利

益代表的考え方が主で体質的に競

技中心の方向が強いと思われま

す。変動はけしく価値観も益々多様化

していく時代。地域住民の多様な

要求・需要に添えていくために行

政機関との協力・共同を含めての

機構、スポーツ少年団組織のよう

な個人登録、団体加盟というかた

ち等又内部的にも現在の理事会、

各委員会、専門部会の構成並び運

営について等現組織機構を見直し

改革をする時かと考えます。

いろいろ述べてきましたが、「競

技スポーツ」をはじめ「コミニティ

スポーツ」、「レクリエーションス

ポーツ」というように多志向型ス

ポーツクラブも包含していかな

ければならない課題、基本となる財

政の問題、指導者の育成等課題が

まだまだ多々ありますが、五〇年

という節目の年に向つて一つの区

切りとして、二一世紀の新しい時

代に対応していける体質に基本姿

勢の改革をはかり、より強固な基

礎を築いてスポーツの統轄団体と

しての役目を果たしていかなけれ

ばならないと考えます。

表紙写真説明

上段 Vリーグ・NEC・富士

フィルムチーム歓迎セレ

モニー

下段 NEC・富士フィルムチ

ームの攻防

富士フィルムのプロック

アウト成功の瞬間

全国中学校選抜水泳大会 二冠の感激

川越市立寺尾中学校 前田 葵



全国中学校選抜水泳大会は、私にとって大事な大会の一つであり、昨年には二百メートル背泳二位、百メートル背泳七位という成績で反省の多いレース結果でした。

今年こそ得意の二百で優勝を！と狙っていました。

一日目二百背泳は予選タイムがあまり良くなく三番残りで通過しました。

決勝では、植竹中の山下先生にマッサージしてもらい（このマッサージは必ずベストタイムが出るという縁起ものらしいです）とても体が軽くなった感じで気分が良く、ほど良く緊張し決勝レースに望めました。

埼玉選手団やみんなが応援してくれるので、とにかく「一生懸命頑張ろう」と思いました。

和田コーチは「前半となりにびっタリついで百から百五十にかけてスピードを上げてラスト五十メー

トルは思いきり、いく様に」と。

― 死にものぐるいでラスト泳いだ。体が水に乗っていた。―

タツチして、すぐ計時板を見るとなんと自分の3コースとタイムが一番上にあつた。やったァー。

勝った！私は思わず、ガッツポーズをした。とても嬉しかった。

喜んで手を振っているみんなの顔を見て又、嬉しくなった。

これで気持ちが少し楽になった。明日は百メートル背泳ぎなのでもっと頑張ろうと強く思った。

今回は、合宿中はもちろんのこと、毎日の練習を、百メートルに昭準を合わせて、泳ぎこんできたので、いけるかも知れない。

昨年の様な結果にしない為に悔いの残らないレースを、とにかくやるだけだ。思いきりやればいい。そして百メートルも自己ベストタイムで優勝することが、できました。

私にとって北海道での全中は、忘れられない大会となりました。これからも、一つ一つ、いろんな大会で、納得のいく成績を出せる様頑張っていきたいと思います。

いつも自分が最高の

自分でいられる様に

これからも努力したい

星野女子高校

バスケットボール部紹介

星野女子高等学校 横手 一美



私が本校に奉職して以来、現在に至るまで、充実した日々の連続でした。

仕事をする環境に恵まれ、出会い生徒達は素晴らしく、幸福感を満喫させてまいりました。

私事でありますが、バスケットボールを本格的に始めましたのは、川越大東中学入学生後、島田逸司先生（現、初雁中学顧問）との出会いからでした。

まず「足」を使つてのバスケットボールを徹底的に指導して頂き、埼玉県で優勝、関東大会を経験することができました。

今、顧みますと本当に、基本の神髄を指導して頂いた感じが致します。高校入学時には、恩師の強い

勧めで、星野女子高校に入學しました。高校では、何事にも取り組む姿勢と考え方、即ち「心」というものについて教わり、更には、数々の全国大会でも活躍すること

とができ恩師との約束であった文武両道を果たすことができました。大学卒業後、母校である本校に奉職しました。

監督就任以来、本校の校長先生

の信条であります「全員で前進」

「手作り教育」を常に念頭に置き日夜指導に没頭しております。

部員は、県外からの通学者もあり、全員大学受験ですので勉学と練習の調整を充分考慮し、部員に余分な我慢をさせず、全力で臨み、皆がファミリーであるという考え方で運営しております。

その結果、常に全国のトップレベルを維持することのできるチームに成長させることができました。

部員は、毎日放課後、本校第一校舎体育館で練習に励んでおります。一人でも多くの方が見学に来て頂けますことを部員と共にお待ち申し上げます。

全国高等学校バスケットボール 選抜優勝大会に出場して

星野女子高等学校 林 亜希子



星野女子高等学校 林 亜希子
「HEART & FEET」。

バスケットをすることです。毎日の練習も、練習のための練習でなく、常に試合を意識し、すべてにおいて心から全力で臨んできました。そしてこの大会では、その三年間の総決算として、色々な想い

と自信を持って挑みました。

試合では、一回戦、二回戦共にチーム全員の気迫で圧勝することができました。そしてベスト8を

かけた試合には、優勝した名古屋短期大学付属高校と戦いました。私達は星野女子高校の名を背負って臨める試合も最後であるという緊張感と今までに積んだ練習を思い出しました。すると、自然に力が沸き、自信を持って試合に臨むことができた、コートに立つ選手だけでなく部員全員の力で一丸となつて、精一杯戦うことができました。

私自身は全国上位ランキング入することはできましたが、誠に残念ながらチームは惜敗してしまいました。

私が星野女子高校三年間で経験したことはたくさんありました。

数多くの全国大会でチーム全員が一つとなり大活躍をできた事が印象深く、本校の教育目標である文武両道を達成する事ができ、とても幸せに思っています。そして、横手先生に御指導頂いたすべてを心に刻み、これからも「HEART & FEET」という三年間で培ったバスケットの精神を忘れず、大学入学後も今までに積んだ多くの経験を活かし、何事にも執拗な努力を続けていきたいと思っています。

第47回 川越市民体育祭

平成6年度 第四十七回市民体育祭は、八月七日の陸上競技を皮切りに、三月十二日のスケートを最後に、全二十七種目が無事終了しました。

川越市民体育祭は、昭和二十二年に市民大運動会として始まり、現在、地区では町内体育祭と競技性をもつ市民体育祭に分かれて行われています。

市民体育祭の目的は、健康で明るく豊かな市民生活を築くため、スポーツ及びレクリエーションを



広く市民スポーツの活動を一層活発化するとともに、競技力の向上

を図ることにあります。

本年度市民体育祭参加者数は、二二四九六名で、昨年度合計二二一五五名に比べると、六一九名減少している。また、年齢別に見ると、青年層が減少しているのに比



べ、壮年層が増加している。種目別に見ると、野球・バスケットボール・水泳・レクリエーション・ソフトボール等が増加している。

町内体育祭、

実施自治会 一八六自治会

会場数 三四会場

実施期間 10/2～11/13

全参加者数 四三〇八五名

で秋のスポーツシーズン日曜日を中心に行なわれました。

スポーツ教室

平成6年度スポーツ教室が、教育委員会・体育協会・川越市施設管理公社の三者共催により、16教室七八九人の参加者により開催されました。

今年度は新種目としまして、昨年度の「婦人スポーツの集い」で行いました「気功」や「3B体操」「ソフトバレーボール」を取り入れました。

気功教室には、気功術では高名な常津先生が自らご指導にあたられ、参加者も大変熱心に受講していました。

また、昨年は異例の猛暑により、全国各地で水不足が深刻な問題になりましたが、川越市においても少年少女水泳教室の実施が危ぶま



れましたが、極力節水するという条件で実施することができました。スポーツ教室は、市民の皆様の

健康の増進や体力の向上は元より、明るく豊かな人生を送っていただくために「生涯スポーツ」への一助となることを目的としています。

今後多くの方々が参加し、「楽しかった」「もう一度やってみたい」という声が聞けるような教室を開催していきたいと思っています。

各教室の参加者数

卓球教室	47名	婦人水泳教室	25名
ソフトテニス教室	26名	婦人3B体操教室	17名
ターゲットバードゴルフ教室	27名	婦人ソフトバレーボール教室	32名
気功教室	50名	少年少女バトン教室	33名
少林寺拳法教室	13名	少年少女水泳教室	34名
太極拳教室	23名	ジュニアスキー教室	82名
硬式テニス教室	50名	ジュニアスケート教室1回目	116名
スケート教室	50名	ジュニアスケート教室2回目	115名
婦人ボウリング教室	49名		

第47回 市民体育祭参加者

	参加者					合計
	少年	青年	婦人	壮年	その他	
野球	0	285	0	235	0	520
卓球	84	85	83	51	8	311
ソフトテニス	44	24	118	30	0	216
バレーボール	120	250	600	0	0	970
バスケットボール	405	600	30	0	0	1035
サッカー	1472	722	48	0	0	2242
柔道	287	63	32	38	0	420
剣道	193	36	23	36	0	288
弓道	38	20	30	50	25	163
空手道	53	55	1	6	0	115
陸上競技	445	28	2	22	0	497
水泳競技	1481	70	64	74	6	1695
スキー	49	89	20	63	7	228
クレー	0	4	0	31	10	45
ライフル	0	2	2	32	0	36
スケート	39	4	0	3	0	46
体操	215	0	0	0	0	215
小体連	1320	0	0	0	0	1320
中体連	3350	0	0	0	0	3350
高体連	2188	0	0	0	0	2188
レクリエーション	4	1	310	152	350	817
バトミントン	0	64	86	66	2	218
少林寺拳法	72	80	10	10	0	172
ソフトボール	0	0	359	3048	102	3509
テニス	50	280	200	200	20	750
ボウリング	0	11	31	36	2	80
なぎなた	16	2	16	0	16	50
合計	11925	2775	2065	4183	548	21496

付記 少年少女=小・中・高校生
青年=30歳未満
婦人=30歳以上60歳未満
壮年=61歳以上

平成六年度 川越市体育功労者・優秀選手表彰式

優秀選手表彰式は平成七年二月十九日に初雁中学校体育館に於て舟橋川越市長より、祝福と激励の挨拶をいただき、体育功労者五名特別表彰二団体・優秀選手二三四名の受賞者に舟橋市長・村田教育長・関口体育協会会長より、賞状と記念品が贈られ、表彰式は厳粛に行われました。

【体育功労賞】

この賞は、本市体育・スポーツの振興に著しく貢献した方に贈られるもので、本年度は次の五名の方が受賞されました。

・松本 寛(ソフトテニス)
・天沼 忠一(バレーホール)
・金子 悦男(サッカー)
・新井 充(中学校体育)
・黒米 昭男(高等学校体育)

【特別表彰】

本年度特別表彰受賞団体は、二団体で、城北埼玉高等学校と山村女子高等学校の両少林寺拳法部が受賞いたしました。

この特別賞とは、全国大会以上の同一大会で十年以上連続して出場した団体及び個人にその功績を讃え与えられるものです。

☆全国高等学校少林寺拳法大会

の記録(両校共同一大会)

第12回大会東京 S 60・7・28

第13回大会山口 S 61・8・24

第14回大会和歌山 S 62・8・9

第15回大会岡山 S 63・7・31

第16回大会新潟 H 元・7・23

第17回大会北海道 H 2・7・29

第18回大会愛知 H 3・7・28

第19回大会兵庫 H 4・7・26

第20回大会神奈川 H 5・7・25

第21回大会大阪 H 6・7・24

特に、城北埼玉高校は、第13回大会で、男子団体演武の部第五位入賞、また、山村女子高校は第19回大会で女子団体演武の部第一位、第21回大会では同部四位入賞を果たしている。

【優秀選手賞】

この賞は、市内在住・在勤・在学の選手で、埼玉・川越を代表し関東・全国大会等に出場し、活躍した選手に贈られます。

。野球の部 四十二名
。卓球の部 十二名
。ソフトテニスの部 三十五名
。バレーホールの部 十三名
。バスケットボールの部 二名
。サッカーの部 二十一名
。柔道の部 二名
。剣道の部 七名
。弓道の部 七名
。空手道の部 五名
。陸上の部 十七名

。水泳の部 十二名

。スケートの部 八名

。レクリエーションの部 一名

。ボウリングの部 二名

。少林寺拳法の部 四十二名

。なぎなたの部 一名

。自転車競技の部 六名

受賞者の皆様おめでとうございました。

【体育賞】

この賞は、小・中・高校生対象で、体育・勉強共に優秀で他の生徒の模範になる児童・生徒を主に協会会長より表彰される。

本年度、受賞者は小学生三十六名・中学生四十五名・高校生十二名であります。



受賞者の皆様おめでとうございます。

全国高等学校少林寺拳法大会

十年連続出場を果たして

城北埼玉高等学校 坂上 宣久

このたび川越市体育協会により、全国大会十年連続出場への特別表彰を受けることになり、望外の喜びと、これからの責任の重さを痛感しております。

我が部は創立以来、本校の校訓である着実・勤勉・自主の精神にのっとり、日々の研鑽を積んで参りました。大学進学と人間形成を二大教育目標に掲げる本校において、文武のどちらも疎かにしないよう指導してきたつもりです。

この十年を振り返りますと、先輩諸兄の御指導御鞭撻や、歴代部員諸君の真摯な努力が私の拙い指導を支えてくれ、このような成果をあげることができたという思いを強く感じます。今回の表彰を機に、感謝の気持ちを新たに、これからの活動に邁進して参りたいと考えております。

最後に、此の度の栄えある表彰に謹んで御礼申し上げますと共に、川越市体育協会の益々の御発展を祈念し、筆をおかせて頂きます。



十年連続出場への道

山村女子高等学校 田村 重行

本校が、初めて全国大会に出場したのは一九八五年に東京葛飾区スポーツセンターで行なわれた大会でした。そして一九九四年の大阪守口市民体育館で十年目をむかえたわけであるが、その間には色々な出来事があった。第一回から第七回の大会までは、予選すら通過することができず、全国大会の壁の厚さを感じた。

しかし少林寺拳法の不撓不屈の精神で、自分たちの未熟な点を研究し、その努力が実を結んで、第八回の姫路大会の女子団体演武の部において、第二位に入賞することができた。また、第十回の大阪大会においても同部門で第四位に入賞した。これは、もちろん、部員の熱心な練習の賜物であるが、それ以外にも現在川越少林寺拳法協会会長矢島隆夫先生の御指導も忘れられない。

普段の練習においては、少林寺拳法を通して身体と精神の両面における錬磨を目指している。これからも初心を忘れずに、原点に戻って、地道に努力していく所存である。

今後、皆様方より一層の御支援をよろしくお願いいたします。

川越市出身 樋口プロ 一月二八日

72勝のゴルフを語る

やまぶき会館

演題「私のゴルフ人生」

一月二八日、川越市やまぶき会館に於いて五百名余りの聴衆の参加を得て、川越市出身の日本女子プロゴルフ界の第一人者「世界のチャコ」と称される樋口久子プロを招いて、平成六年度スポーツ講演会が盛大に開催されました。

講演は、樋口プロの二十年余りのゴルフ人生を通し、講演・質疑・ワンポイントレッスンに分けて、ゴルフの魅力、ゴルフの取り組みについて話されました。講演の骨子を紹介いたします。

・先生の一言

中学時代運動は好きだったが、束縛され、卒にはまった練習を嫌い怠けがちな私の為に、暑い夏のある日家庭訪問された陸上部顧問の小澤先生の一言が私をかえしました。それは

「練習は人の為ではない、自分を磨くため」自分の才能を伸ばしてはいいの一言でした。

ゴルフの練習も「誰の為でもない、自分を磨く」を常に念頭に置き練習してきました。

い、自分を磨く」を常に念頭に置き練習してきました。

・ゴルフの魅力

結論は、ゴルフにはパーフェクトがないという事です。

ボウリングは三百点でパーフェクトです。ゴルフは外です、コースも違う、天気も違う、同じコースでも毎日違った顔になる。その日その場での自分との闘いで喜怒哀楽を楽しめる。終わりが無い止められないスポーツである。

・向上のための練習心得

(1) 「腕は一流になれ、コースは三流で」

これは私の師中村寅吉先生の言葉です。ゴルフは一球一球違った場所違った条件で勝負するもの良い環境で練習するより、起伏の多い、天気に左右される三流のコースで腕を磨き技術は一流を目指す。

(2) 目で学び・体で覚える

私は、中村先生のキャディー付き、試合の雰囲気・駆け引き、スイングフォーム等言葉で表現できないものを身体全体肌で感じ取る



ように努めました。

もう一つ私は、手先は器用だが体は不器用で鈍いほうでしたので先生の指導は「今すぐ忘れない内に、体で覚える」を実行しました。

(3) 失敗・スランプはプラス思考で

日本女子プロ選手権7連勝中の私は、8連覇を目指したときに山崎小夜子さんに敗れました。この敗戦をマイナス思考で考えず、丁度この山崎さんが結婚するので善い贈り物が出来たと考え、この敗戦は私を普通の人にもどし、一からの出直しを与えてくれたと気持ちを持ち切り替え、再挑戦し2回優勝しました。

90分がアツという間に過ぎ去り有意義な価値ある時間でした。紙面の関係で、全部紹介できないのが残念です。

スポーツ指導者養成講習会

スポーツ指導者養成講習会は、昨年の反省に基づき第二回講習会を次のように考え計画実施しました。

人生八〇年時代を迎え、生涯スポーツという考え方が注目され、生涯スポーツの意義は「人間の発達段階にに応じ、生涯にわたって運動やスポーツに親しむ」或いは「個人の年齢や体力に応じ、運動やスポーツを実施する」等抽象的に説明され、何となく意義は分かるが、具体的には誰が、どのような発達段階で、どのようなスポーツをすればよいのか分りにくいものがあり、指導者として何をどう学かを次のような「ライフステージ」として押さえ学ぶことにした。

学 ぶ ス ポ ー ツ 指 導 者

「ライフステージ」

幼児期—保育園・幼稚園

児童期—小学校・中学校生徒

青年期—高校・大学

成人期—社会人前期

中年期—社会人後期

高齢期—退職者



生涯スポーツ社会の指導者として、スポーツ科学的な知識や技能を身につけるため、本年も立教大学の先生を講師に招き「発育期のスポーツ指導」と題して幼児期・児童期の指導「生涯スポーツと指導者」と題して青年期・成人期の指導について学習しました。

特に講義の中で個々の体力に合った指導のあり方、栄養学を踏ま得ての生涯スポーツ指導には学ぶ内容多く受講者から好評を得ました。

受講者の反省から、来年度は中年期・高齢期のスポーツ指導と事故防止の為の学習を是非と望む声が多いので、更に学習を深める講習会を計画したいと思います。

第13回川越ウォークソン大会

参加者二四九六名

第13回川越ウォークソン大会

(川越市・同市教委・日本ウォークソン連盟・毎日新聞社主催) が文化の日の三

日、同市の川越運動公園陸上競技場をスタート・ゴール地点にして行われた。この日は早

朝、雨の降るあいにくの天候であったが、県内外から参加した二四九六人は、伊佐沼周辺の田園コースを巡りながらさわやかな汗を流した。

競技種目の一般二〇キロ男子は、昨年のタイムを10分以上縮めた山田龍也さん(18) 嶋山町が、同一〇キロ女子は初参加の小金井恵美さん(15) 越生町がそれぞれ初優勝した。

参加する事を楽しんでほしい

大会会長の舟橋功一

川越市長は開会式で

「ウォークソンは若男女が楽しめる。オリンピックのように参加することを楽しんでほしいとあい

第13回 川越ウォークソン大会

一般20キロ男子山田さん、同10キロ女子小金井さんが初優勝

さつ。参加者を代表して、一般五キロ女子の部にエントリーした市内小学校の女性校長三人 安部昌子さん(寺尾小)、田中輝恵さん(川越小)、原田菊子さん(川越西小) が、「より正しく、より美しく、より速く、より楽しく歩くことを誓います」と選手宣誓した。

午前九時、舟橋市長のピストルの合図に花火が打ち上げられ、競技種目の一般二〇キロ男子からスタート中学生、小学生親子も続々と競技場を飛び出し、田園風景が広がる伊佐沼周辺のコースを目指した。

両親の声援の応え、沿道のカメラに向かってポーズをとる男の子。グループでおそろいのシャツとスパッツ姿で仲良く歩く女の子。親子の部では、元気に歩く子供の姿をビデオカメラに収めながら一緒に歩く父親の姿も。

曇り空はなかなか晴れず沿道は底冷えがするほどだったが、ウォーカーたちは皆、ゴールが近づくとうれしい顔に。疲れて腕の振りが鈍くなった小学生

生に、追いついた大人が「ほら、あと少し」と声をかけながら並んで歩くなど、参加者同士で励まし合う姿も見られた。80才以上の参加者八人も全員完歩した。

普段、車中から見落としていく風景が



ウォークソンは三度目。でもこれまででは取材だけ。仕事から逃れ



たいの下心と減量をもうろみ、参加を決めた。何事も形から入らな

いと、気持ちが高ぶらないという困った性格で、人気サッカーチームのユニフォームをそろえ、新しい靴を買って本番に備えた。しかし深い酒し、二日酔い。軽い頭痛を感じながら、一般一〇キロのスタート地点に立った。

準備体操もしないで歩き始めたせいか、最初の一キロが遠い。早



くも腿が痛み、不安にかられる。田園地帯を抜け、伊佐沼が見えると余分な力が抜け、体のキレがよくなった。余裕ができたせいで、周りの人の歩き方をまねる。

農作業をしている人や、交通整理の役員の人たちに会釈すると、「がんばれ」と声が返る。車に乗っている時には見落としている、人の表情や風景に出会う。

(毎日新聞社 北村弘一記者)

賀詞交歓会

平成7年1月7日(土)、川越プリンスホテルにおいて、川越市体育関係者賀詞交歓会が、三五八名の出席者により盛大に開催されました。

昨年までは川越福祉センターを会場として開催されていましたが、今回は、川越プリンスホテルに会場を移し、昨年より百名近く多くの出席者がありました。

ホスト団体の剣道連盟とバスケットボール連盟の労と、生田流筆曲の琴の調べにより会は最高潮に達し、盛会のうちに締めくくることができました。



団 体

だより

川越テニス協会

この紙面をお借りして、テニス協会の組織の概要と活動状況を紹介いたします。

川越市テニス協会は、一五年前に設立し、現在三〇の加盟団体により組織しています。主な団体は川越インドア・リトルプリンス・霞テニスバーク・名細テニス・川越TC・初雁TC・フォレストテニスクラブ等でテニスコートを所有する会社は、ヘキスト・雪印・サンケン電気・土屋製作所等です。



協会加盟の選手の主な活躍は、平成五年度は、埼玉県都市対抗テニス大会（県予選）、埼玉県民総合体育大会に優勝し、県代表として

全日本都市対抗テニス大会に出場し、川越市代表は一位大阪・二位京都という大都市につづき三位という好成績をおさめました。

平成六年度も、都市対抗県予選に優勝。広島県で開催される全国都市対抗テニス大会への出場権を獲得し、只今選手は一位を目指し汗を流し特訓中です。

更にテニス協会では、阪神大震災の救援活動の一助として、三月一八日に城下コートにて「震災救済チャリティ大会」を開催しました。

スパークサッカー少年団

30年の歩み

昭和40年4月、仙波小の生徒を中心にクラブ員15名で仙波少年サッカークラブの名称でスタートしました。初めてのころろみで、どのように指導して行くか、迷ったが、まず子供たちから「明るく・楽しく・賑やかに」を基本に据えサッカー少年団の活動を始めました。

一年にして、部員も多くなり、クラブの組織をしっかりとしようと横溝勇前会長の努力でチーム名をスパークス・ダッシュヤーズ・ホークスと3チームに再編し、密度の濃い活動を展開いたしました。

その後七年が経過し、計画的・統一的な活動を展開するために、昭和49年チーム名を一つにした方

が活動し易いとの声が高まり、スパークスサッカー少年団と改称され、今日に至っております。

昭和50年5月、関口体育協会会長の努力で川越市スポーツ少年団が結成され、スパークスも団に加盟し、父母の会を結成し、活発な活動が始まりました。

交流試合、日本サッカーリーグ観戦、夏合宿に海外遠征と年毎に活発になり父母の皆様方大変なご協力をいただきました。

少年達が学校以外のスポーツ少年団活動を通し、限りなく伸びる自分を知り、また友達やコーチの皆さんとの出会いが、友情と協力と喜びを学び、少年時代の思い出になると信じ、指導を続けています。



川 越 市 体 育 協 会

県表彰

体育協会は、基本方針にのっとり又、事業の円滑化を図るため、三つの専門部会を組織している。それぞれの内容は、以下の通りである。

●組織委員会

体育協会の組織について検討し拡充強化していく。

●指導委員会

スポーツ指導者の養成を目的とし、現在、スポーツ指導者講習会スポーツ講演会を手がけている。

●広報委員会

体育協会の活動を市民に知らせる広報活動の推進。

平成六年度主な事業

・競技団体別指導者講習会

四月～三月 二十七回

・スポーツ教室

四月～三月 十六教室

・市民体育祭

八月～三月 二十七種目

・スポーツ指導者養成講習会

九月～十月 四回

・第十三回川越ウォークソン大会

十一月三日

・体育関係者賀詞交歓会

一月七日

・スポーツ講演会 一月二十八日

講師 樋口 久子先生

・体育功労者・優秀選手表彰式

二月十九日

編集後記

平成7年の幕開けは、阪神大震災という戦後最大の惨事に見舞われ、都市化社会にイエローカードが出されました。被災者並びに遺族の方々へ心よりお見舞い申し上げます。

さいごに、お忙しい中にもかかわらず心よくご寄稿くださいました皆様にお礼申し上げます。

◎優秀選手賞

前田 葵(寺尾中学校)

全国中学校競技大会

百M背泳 優勝

星野女子高校

ソフトボール部 十六名

全国高校選抜大会 準優勝

川越市テニス協会 十二名

全日本都市対抗大会 三位

◎県民総合体育大会

市町村対抗 市の部

川越市 男女総合 六位

男子総合 四位